

アマリリス Amaryllis

静岡県立美術館 ニュース

THE JOURNAL OF SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



アルブレヒト・デューラー（放蕩息子）
一四九六年頃、紙、エングレイヴィング
二四・八×一九・〇cm

デューラーは、ドイツ・ルネサンス美術立役者の一人。イタリアへ二度遊び、同地で「再生された」美術の影響を、アルプスの北側に持ち込んだ。本作品は、最初のイタリア旅行から帰国した翌年、猛烈な勢いで制作に取り組んでいた時期の作品である。本作の技法であるエングレイヴィングとは、銅版画の一種。ビュランと呼ばれる特殊な彫刻刀を使い、銅板に線を一本一本刻み込んで版を作るといふ、いわばシンプルな技術である。手加減ひとつで線に抑揚を付けることが出来るが、その分高度な熟練を要する。作者はここまかしの利かない技法で、中央にいる人物の表情や衣服は勿論、背景に描かれた建物や、屋根に留った鳥に至るまでを丹念に描き出している。

（上席学芸員 新田建史）

No.
118
2015年度 | 夏 |

世界遺産登録記念 特別展

「富士山―信仰と芸術―」に寄せて

平川 南
山梨県立博物館館長

富士山ほど人との関わりが深い山は世界に類を見ない。長い歴史の中で、富士山をめぐる文化がその山の裾野のように遠くゆるやかに育まれ、それが未来に残すべき世界遺産と認められたのである。

富士山に対する信仰心は、姿の美しさからだけではなく、畏敬の心情も重要な要素である。霊峰として畏敬の念を抱くのはたびたび起こる恐ろしい噴火によるのではないか。富士山の噴火は過去二〇〇〇年に四十三回起こっており、歴史書などに記録されているものは、延暦噴火（八〇〇〜八〇二年）、貞観大噴火（八六四〜八六六年）、宝永大噴火（一七〇七年）である。富士山体からの火山灰と溶岩の総量は延暦噴火が約八千万 m^3 、貞観噴火が十四億 m^3 、宝永噴火七億 m^3 とされている。とくに、貞観六（八六四）年五月の富士山の

大噴火によって、膨大な量の溶岩が森林地帯を焼き払い、本栖湖などに



《遊行上人縁起絵》第八巻 真光寺（重要文化財）

流れ込んだ。貞観大噴火から一〇〇〇年を経て再生した大森林が青木ヶ原樹海である。この噴火の五年後にマグニチュード八・三以上の貞観大地震（八六九年）が起こったことは、二〇一一年三月の東日本大震災が約一一〇〇年前の貞観大地震と類似していると報道されたことにより、広く知られるようになった。

また平安時代の紫式部の『源氏物語』には、「空に焚くは、いづくの煙ぞと思ひわかれぬこそよけれ。富士の嶺よりもけにくゆり満ち出

くゆり満ち出

でたるは、本意なきわざなり」（鈴虫巻）とあり、お香をけむくなるほどまで焚く女三の宮を、光源氏が富士山の噴煙以上だと注意したとある。あまり東国に興味を示さない『源氏物語』の中でも、煙り立つ富士山は都人にも知られていたであろう。

現存最古の富士山を描いた絵として知られる《聖徳太子絵伝》（東京国立博物館蔵 一〇六九年）は、聖徳太子没後、聖者として仰ぐ信仰の中、太子の生涯を描いた仏教説話画である。神格化された太子が甲斐国が献上した黒駒に乗って、霊峰富士を飛び越えるというモチーフは、聖徳太子と富士山の両者を壮大かつ崇高なものにとらえたことから生まれた作品といえる。

秀麗さと火を噴く荒ぶる富士山は、古来人々の信仰を集め、すぐれた芸術を生み出してきた。

富士山の豊かな自然環境を知る手掛りのひとつが水である。富士山全

体での年間降水量は二二億 m^3 に達するという。富士山全域に降った雨や雪は、長い年月をかけて伏流水として地下水脈を流れ湧き出る。富士山麓には富士宮湧水群、柿田川、三島湧水群、忍野八海など数多くの著名な湧水群が分布する。さらに富士山の湧水は駿河湾をも豊かにしている。駿河湾は水深二五〇〇 m の日本で最も深い湾である。富士山頂から駿河湾の深海まで六二〇〇 m の垂直差がある。富士山の美しい湧水中にケイ酸塩がたっぷり溶けて駿河湾に流れ込み、ケイ藻類やプランクトンを育生し、サクラエビやシラスなどの稚魚の餌となり、たくさんのお魚を育む豊かな海となっている。

富士山の信仰・芸術・自然の恵みをこれからも受け続けるためには、富士山と周辺の美しい環境を守ることが何よりも大切であることを本展示からも多くの人たちに理解していただけるよう努めなければならぬ。富士山の豊かさの裾野は、山裾よりもはるかに遠くまで広がっているのである。

特別展会期

静岡会場 平成二十七年九月五日（土）〜十月十二日（月祝）

山梨会場 平成二十七年十月二十四日（土）〜十一月三十日（月）

静岡県立美術館の来し方

日比野秀男

掛川市ステンドグラス美術館館長

おかなくはとホームページでいろいろ見た。その中で「協議会は…事実上形骸化していることがわかった。存続させる意義に乏しい。」(「静岡県立美術館評価委員会最終提言書 三十二頁」平成十七年三月)とあった。また、問題点として「全体の七割は事務局からの説明、二割は委員から基礎的な質問、残り一割が実質的なコメントだが、企画展の感想など思い付きの域を超えない発言が多い。」とある。

およそ十年前の分析であるが、現在ではいかがであらうか。

第三者評価委員会は前述した平成十七年の最終提言を受けて、協議会と別に設けたのであろう。毎年報告書が出されており、これもホームページで読むことができる。その資料を見て愕然とした。なんと百三十三ページもある。これは二十ページくらいにしなければならぬ。百三十三ページが改善につながっているのであらうか。

県立美術館は間もなく開館三十年を迎える。これまでのように時代に合わない事項はどんどん改善し捨てることは捨ててさらに発展していただきたい。

静岡県立美術館の建設準備室は昭和五十五年四月に開設された。わたくしは準備室に六年、開館後四年間勤めた。都合十年間勤めたことになり。この初期の事を思い出すと、このことはある意味からすれば、美術館の中の遺跡の発掘作業というものにもなる。それは何かがあることがなぜそこにあるのか、再確認することである。日頃多くの人たちが何もしないでいいことでもその由来があるということ、存在理由があるということの再認識である。また、これらの多くは初代館長鈴木敬長先生の指針の確認でもある。因みに、開館時には鈴木先生は六十六歳、私たち学芸十人の平均年齢は三十三歳であった。

たすら勉強せよ、学芸課の中は太湖(中国・太湖石を生み出した湖)のごとく静まり、ただ本をめくる音が聞こえるだけであるようにとして命名したものである。また、学芸課のブースも、ひたすら勉強する環境にはブースが良いということでは決定していないが、三十年近く前はブースにのめり込み顔も出さない学芸員も出てきた。あるいは書類と本の山に埋没しそうになった学芸員も出た。

修復室

学芸課の入り口手前に学芸員が作業とか打ち合わせに使っている部屋がある。これは当初、文化庁から作

品を修理する部屋が必要だ、外光が入る部屋がほしいといったことで設けられた。掛け軸をかけた屏風を置いたりするため、半分畳が敷いてあった。この部屋も修復など一度もする機会がなく、学芸課の作業や会議室として重宝している。さらに学芸課の一面にファイリングキャビネットがあった。雑誌『国華』の複写の写真資料を全員で作った。ほとんど使われることなく、どこかへ行ってしまった。

協議会と第三者評価

私は現在、協議会委員として年々二回ほど美術館の概要を知る機会がある。以前、美術館について知って

扁額「太湖室」

学芸課に入つて左の壁に「太湖室」という扁額がかかっている。これは初代館長鈴木敬長先生の書を篆刻したもののである。鈴木先生は学芸員はひ



扁額「太湖(湖)室」

スイスデザイン展

平成27年7月11日(土)～8月23日(日)

永世中立国そしてアルプスの国として知られるスイス。わが国でも「アルプスの少女ハイジ」や山岳リゾートなど牧歌的イメージで親しまれている同国はヨーロッパ随一の経済力を誇る国でもあり、平和と豊かさに恵まれています。

しかし、この豊かな国を作り上げるまでには多くの先人たちのたゆまぬ努力が積み重ねられてきました。スイスの国土は山がちで、天然資源や広大な農地に恵まれてはいません。さらに加えて、大国の狭間に位置してもいます。国民はこの地質学的にも地政学的にも厳しい条件を克

服しなければならなかったのです。

現在のスイスは、山岳や湖沼といった自然の地形を観光資源として最大限に利用し、ヨーロッパ最大の山岳リゾート地を作り上げました。また、ドイツ語・フランス語・イタリア語・ロマンシュ語が公用語として通じるコスモポリタンな永世中立国として国際舞台で独自の存在感を発揮しています。さらに、勤勉で緻密といわれる国民性は、時計に象徴される高品質な精密機器の生産に大いに発揮されているといえるでしょう。

また、独自の美意識を活かしたシンプルなデザインも国際的に高い評価を受けています。ビクトリノックスのアーミーナイフ、バリーの靴、クリスチャン・フィッシュバッハのテキスタイル、スイス鉄道やエアラインのポスター、USMモジュラーファニチャーのオフィス家具、スウォッチやモンデインの時計、シグのボトル、ネフのおもちゃ、フライターグのバッグや小物。みなさんのなかにもきっと愛用者がいらっしゃると思います。

山がちだが自然豊かな国土に恵ま

れ、経済力も高く、精密機械と独特のデザインセンスが評価されている……そう、スイスはわが国と多くの共通点を持つ国なのです。

こうしたスイスと日本は、長きにわたる交流の歴史を持つています。一八六四(文久三)年には両国により通商修好条約が締結され、昨年二〇一四年には百五十周年を祝うさまざまな催しが開かれました。また、一八七三(明治十)年にはかの有名な岩倉使節団が欧州巡遊の途上でスイスを訪問。政府や博物館、学校、時計工場などの諸機関を視察したり風光明媚な山岳や湖沼を探访したりと、約一ヶ月を過ごしています。

本展はこのような日本スイス交流史料から、各種ブランドによるデザインプロダクトの数々、そして世界で最も有名なフォントのひとつ「ヘルベティカ」などを使用したクールなタイポグラフィ、さらにはフランスで活躍したスイス生まれの世界的建築家ル・コルビュジエの関連資料、



チューリヒ中央駅のモンデイン鉄道時計
©DKSHジャパン株式会社



スーパー「ミクロ」のためのポケットナイフ「ラックサク」
ビクトリノックス 2006年

加えて現在活躍中の若手デザイナーの仕事も紹介……と、実に盛りだくさんの内容でデザイン大国スイスを紹介するものです。

アルプスとハイジだけではなく、スイスのアクティヴでハイセンスな側面を御紹介する日本で初めての試みです。ぜひご来場ください。

(上席学芸員 村上 敬)

世界遺産登録記念 特別展 富士山—信仰と芸術—

平成27年9月5日(土)～10月12日(月祝)

富士山が世界文化遺産として登録されたのは一昨年、平成二十五年六月のことです。それを記念した特別展を、富士山を介して縁の深い山梨と静岡が手を携えて開催することとなりました。といっても、両県合同による富士山展の構想が生まれたのは登録が成るずっとずっと以前のことで、担当学芸員は順々に交代しながらも、企画自体は、展覧会の意義を重視した両館の意志によって受け継がれ、また世界遺産登録によって富士山に対する関心が高まっているこ

とも後押しされ、今日ようやく実現の運びとなりました。

本展のポイントは、信仰と芸術という両面から富士山の文化的意義を探ろうという点で、山梨県立博物館と当館とがそれぞれの得意分野を生かしながら内容の充実を図りました。当館の担当領域である絵画作品においては、《伊勢物語絵巻》(和泉市久保惣記念美術館、図版1)、《遊行上人縁起絵》(兵庫・真光寺)(いずれ



図版1 《伊勢物語絵巻》和泉市久保惣記念美術館 重要文化財 展示期間：9月29日(火)～10月12日(月祝)

も重要文化財)等々、各所蔵者のご協力により多くの優れた作品をご紹介できることになりました。富士山の絵画のエッセンスを示すとともに、信仰という視点から捉え直すことにより、従



図版2 《役行者像》円楽寺

来知られた作品にも重層的な意味があることをご紹介できればと思います。

一方、富士山の信仰に関する文化財を多数展示するのは、当館としては初めてのことであり、これまでの富士山展とは異なる新たな試みといえます。

山梨・円楽寺の《えんがのまのやま役行者像》(図版2)は、修験道の祖といわれ富士山とも関わりの深い役行者の現存最古のお像とされ、目尻を吊り上げ、口を大きく開けた気迫に満ちた表情を見せます。役行者像の成立を考えると、富士山信仰における荒々しく厳しい側面を感じていただくにも十分の、迫力あるお姿です。

富士山の信仰を語る上で欠くことのできない村山浅間神社・富士山興法寺大日堂の大日如来坐像二体につ

いても、本展に拝借できることになりました。ただし、九月六日(日)の村山におけるお祭を終えられ、会期中からのお出ましとなります。無論お祭は催事に優先するのであり、今この時代においても人々に崇められ大切にされる仏様にお出ましただけのことの意義が、こうした事情を知ることにより深く感じられる、ともいえるのではないのでしょうか。

富士山に関する文化財の多くは、当然といえば当然ですが、山梨と静岡という、富士を戴くこの地で育まれてきました。現在も大切に守り伝えられるそうした文化財に触れるにつけ、連綿と受け継がれてきた富士山に寄せる思いは、今ここに生きる私たちともつながっているという感覚を覚えます。本展が、ともすると富士山の存在が当たり前になっている私たちにも、発見や感慨をもたらす機会となり、改めて富士山を見直し、その意義を考え、後世に伝えていく気持ちを新たにする契機となるよう願っています。

(上席学芸員 石上充代)

石田徹也の今日性

上席学芸員 川谷承子

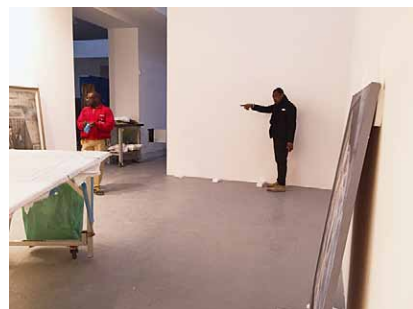
五月二十三日、石田徹也が亡くなって十日の命日を迎えた。当館では、二〇一五年一月二十四日～三月二十二日まで、「石田徹也展―ノート、夢のしるし―」を開催した。

この展覧会は、二〇一三年秋に栃木の足利市立美術館で開幕の後、神奈川の平塚市美術館、富山の砺波市美術館での開催を経て、最終会場として静岡県立美術館に巡回し、四館で、延べ四万七千人が来場した。没後十年が経った現在も、石田作品への関心は薄れるばかりか、海外や、石田が亡くなった時、まだ十代だった現在の二十代へも鑑賞者は広がっている。作品の解釈は、さまざまな視点から行われ、深みを増している。この論考では、近年、海外で、石田徹也作品に関心が寄せられている状況を、展覧会毎に整理するとともに、国内巡回展で、来場者が残したメッセージを手掛りに、石田作品の特異性と今日性について、考えてみたい。

日本で四館巡回展が実施された、二〇一三年秋～二〇一五年春までの約一年半の間に、海外の複数の国で、石田徹也の作品が紹介される展覧会が開かれた。二〇一三年十一月七日～十二月二十一日にかけて、香港のガゴシアン・ギャラリーで、個展「TETSUYA ISHIDA」が開催され、個人が所蔵する絵画十三点が紹介された。この展覧会はこのギャラリーでの初の個展であり、展覧会カタログには、東京都現代美術館の長谷川祐子氏、ギャラリーQの上田雄三氏による英文エッセイが収録され、日本でのこれまでの研究成果を踏まえた、日本人研究者による作品解釈が、英語に翻訳され

る形で紹介された。二〇一四年十一月十四日～二〇一五年二月二十二日には、米国サンフランシスコのアジア美術館 (Asian Art Museum) で、個展「Tetsuya Ishida: Saving the World with a Brushstroke (石田徹也・世界を救う絵筆)」が開催された。米国での、石田徹也の初の個展であり、日本美術を専門とする同美術館学芸員ローラ・アレン氏とユキ・モリシマ氏がキュレーションを務め、米国の個人が所蔵する絵画八点が展示された。展覧会のための小冊子が発行されており、図版とともに、日本語文献を参照しながら、米国の執筆者の解釈も加えられた、無署名の作家解説文が掲載されている。また、二〇一四年九月五日～十一月九日には、韓国で開かれた第十回光州ビエンナーレの出演作家の一人として石田が選ばれ、ガゴシアン・ギャラリーでの個展に出品された作品を含む六点が展示された。同展は、英国の現代美術館テート・モダンのキュレーター、ジェシカ・モーガンが芸術監督を務め、世界三十九カ国から一〇三組の作家が参加している。「Burning down the house (その家を焼き払う)」をテーマに、社会的、政治的な問題を扱う作品が多く集められた。石田の作品は、「アジアにおける急速な消費文化の増大と、その結果生じる物質的生産からの転置」を考えるコーナーで紹介され、同展で「The Posthumous accolade (没後に栄誉を贈る賞)」を受賞した。ちょうどこの光州ビエンナーレ終了後、静岡での巡回展開幕を目前に控えた昨秋、イタリアで二〇一五年五月九日～十一

月二十二日に行われる、第五十六回ヴェネチア・ビエンナーレに、同展の芸術監督を務めるオクウィ・エンヴェゾー(一九六三年、ナイジェリア生れ)が、石田作品の出品を希望しており、当館所蔵品を含む絵画を国際企画展に出品したいとの依頼が、ビエンナーレ財団から舞込んできた。検討の末、依頼に応じる事になり、当館所蔵三点、個人蔵二点、香港のガゴシアン・ギャラリー所蔵一点、計六点の石田作品が出品された。ドイツで二〇〇二年に開催され、オクウィ・エンヴェゾーがキュレーションを務めた国際展、ドクメンタ十一は、「グローバルバリエーション」、「文化多元主義」、「ポスト植民地主義」時代の芸術―脱領域化された文化理解―をテーマに、社会的な問題を扱った作品に焦点を当て、現代社会の政治、経済、社会の矛盾を告発する(ドキュメント)作品を多く取り上げた点で画期的な展覧会であった。このオクウィ・エンヴェゾーがキュレーションを務める、本年のヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展「All the



第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際企画展での石田徹也作品の展示風景 奥の作品を指さす人物はオクウィ・エンヴェゾー氏 2015年4月 筆者撮影

月二十二日に行われる、第五十六回ヴェネチア・ビエンナーレに、同展の芸術監督を務めるオクウィ・エンヴェゾー(一九六三年、ナイジェリア生れ)が、石田作品の出品を希望しており、当館所蔵品を含む絵画を国際企画展に出品したいとの依頼が、ビエンナーレ財団から舞込んできた。検討の末、依頼に応じる事になり、当館所蔵三点、個人蔵二点、香港のガゴシアン・ギャラリー所蔵一点、計六点の石田作品が出品された。ドイツで二〇〇二年に開催され、オクウィ・エンヴェゾーがキュレーションを務めた国際展、ドクメンタ十一は、「グローバルバリエーション」、「文化多元主義」、「ポスト植民地主義」時代の芸術―脱領域化された文化理解―をテーマに、社会的な問題を扱った作品に焦点を当て、現代社会の政治、経済、社会の矛盾を告発する(ドキュメント)作品を多く取り上げた点で画期的な展覧会であった。このオクウィ・エンヴェゾーがキュレーションを務める、本年のヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展「All the

World's Futures (全世界の未来)」には、五十三カ国一三六組の、実に多くの地域からアーティストが選出されている。日本からは、石田徹也のみが選ばれた。筆者が、貸し出し作品のクーリエとして、展覧会場までの作品輸送、展示に立ち合った際、オクウィ・エンヴェゾーは、作品の配列に関して頭を悩ませながら、石田作品の描写の緻密さへの驚き、石田作品の表現の強さについて語ってくれた。オクウィ・エンヴェゾーは「All the World's Futures」に向けたステートメントで、「我々の時代において現在進行している不安を、いかに的確につかみ出し、理解し、検討し、繋ぎ合わせる事ができるか」、また「現代のグローバルな現実を、絶えず続く再編成、調整、再調整、運動性、形を変えるものの一つとして、徹底的に掘り下げる」といった抱負を投げかけている。一九八九年のベルリンの壁の崩壊や、二〇〇一年のアメ리카同時多発テロ(9/11)以降の、近代の終焉によって、共産主義が幕を引き、自由主義経済が急速に広がり、新たな時代が幕を開けた後の、まさに現在の我々を取り巻く、流動的でグローバルな資本主義の時代の不安。この不安を捉えた



第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際企画展での石田徹也作品の展示風景 2015年4月 筆者撮影

作品のひとつとして、オクウィ・エンヴェゾーは、石田徹也の作品を、選出したのだからと、筆者は推察している。また、静岡での巡回展の会期中とその前後には、台湾、韓国、チェコ共和国の美術館や演劇グループからも、石田作品を展覧会に出品したい、あるいは石田をテーマにした演劇作品を創作したいなどといった問い合わせが、相継いで、美術館や関係者に寄せられた。台湾、チェコ、韓国といった、一九八〇年代後半から九十年代にかけて民主化を経験し、社会の価値観が大きく変更された国々から、石田作品に関心が寄せられる点は、興味深い。余談であるが、先に挙げた、光州ビエンナーレは、光州民主化運動の民主精神を受け継いで、新しい文化的な価値を国際的に発信していく現代美術の場として一九九五年にはじまった展覧会であった。グローバルな規模で、資本主義が進行するなか、世界各地で噴出している様々な変化や摩擦、矛盾を読み解く上で、石田作品は、求められている。社会と個人との関係性に目を向け、一九九五年から二〇〇五年の十年間の日本で描かれた石田徹也の作品に、今、世界から熱い視線が投げかけられている。

次に、日本での巡回展でのメッセージコーナーに寄せられた書き込みについて考えてみたい。巡回展では各会場に、来場者が自由に感想を書く「石田徹也さんへのメッセージ」のコーナーを設けた。記入されたシートは、会期中、ボードに掲示し、会期終了後、石田徹也の両親に贈呈することをあらかじめ告げて、自由な参加を呼びかけ

た。このコーナーは、国内で石田徹也の個展が開催されるたびに、ご家族の要望を受けて行われてきた。静岡会場でもメッセージを残した人の数は、一八九名で、来場者数の一〇程度であった。そのメッセージに目を通すと、いくつかの共通点が見られた。石田徹也の、細かい描写力、ユーモアのセンス、機械と合体した人間のイメージの強さや不気味さに寄せる驚きと賞賛、早すぎる死への悼み、などとともに、鑑賞者自身が辿って来た人生や、今現在の自らの状況に触れながら、石田作品の中に、自分自身の姿を重ね合わせる書き込みが目につく。「石田の絵の中に、自分の姿を見た」、「また会いに来た」、「心が救われる」といった言葉とともに示される、共感である。紙面上では、非常に親密に、作品(あるいは石田)との対話が行われている。石田徹也の作品は、石田が主に二〇歳代の頃に描かれており、亡くなった時は三十一歳、生きていれば、現在四十二歳である。メッセージの書き手の年齢は、九歳から七十歳代までと幅広いが、中でも二十代、四十代の書き手が、それぞれ二割を占める。石田が亡くなった時、一〇代だった若い層も新たな鑑賞者に加わっている。メッセージコーナーに寄せられた文章には、石田作品を能動的に解釈しようとする、鑑賞者側の意思が見られる。このことは、石田の作品に、共感を呼び起こす、開かれた力があることを物語っている。美術の専門家とは異なる、一般の鑑賞者の声を聞くことも、石田作品を解釈する上で、重要なのだろう。



本の窓

倉橋滋樹／辻則彦 著
『少女歌劇の光芒』
ひとときの夢の跡

青弓社 二〇〇五年刊行

独自の団員養成システムを持ち、未婚の女性のみでレヴューやミュージカルなどを華やかに上演し、今日世界的な独自性を放つ宝塚歌劇団。ですがこの歌劇団が生まれ、「宝塚少女歌劇団」と名乗っていた一世紀ほど前、「少女歌劇」は日本各地に百花繚乱の如く咲き乱れていました。

「ハダカゲキ」の通称で話題を集めた広島島の「羽田別荘少女歌劇団」、今日のタカラジェンヌを生み出すパレエ学校の母体となった博多の「青黛座」、「DSK」の愛称で親しまれた福井の「だるま屋少女歌劇部」……。

本書では、戦前日本に生まれ多くは戦争を契機に散った、各地の「少女歌劇」が紹介されています。往時の「モダン文化」を偲ばせる一冊です。

(学芸課長 三谷理華)



ひとの環をつなぐ

主任学芸員 野田麻美

この四月に、群馬県立近代美術館から参りました野田と申します。当館、そして静岡には、調査、作品の借用、展覧会など、様々な機会に訪れておりましたが、実際に静岡に住んでみると、北関東との風土の違いは大きく、毎日が新鮮な驚きに満ちています。

上毛三山に囲まれた群馬では、「からっ風」「赤城おろし」と呼ばれる冷風が吹き、乾燥した気候の下、さっぱりとした快活な気質の人びとに囲まれて、群馬県立近代美術館の先輩方に、学芸員として一から育てていただきました。

静岡の風土や気候、県民性は、あらゆる点で群馬とは対照的です。静岡は海の幸に恵まれ、暖かい気候の下、人びとがゆったりと生活していることに、たいへん魅力を感じております。静岡の土地が生んだ文化的な環境の中で活動できることが、当館の強みの一つなのだと実感しました。

当館の日本画担当として着任し、実際に作品と触れ合う中で、素晴らしいコレクションに囲まれて仕事をさせていただけることに、責任の重さと喜びを噛みしめています。県立館きよりの質を誇る

当館の江戸絵画は、江戸絵画ファン、研究者、学芸員など、様々な人びとを惹きつける磁石のような存在です。江戸絵画担当の学芸員は、そうした人びとが形成する緩やかな「環」を繋ぐような役割を果たさねばなりません。

前任者の福士雄也さん、その前にいらした山下善也さんには、私が専門とする狩野派作品の調査や作品の拝借などでお世話になり、様々なことを教えていただきました。山下さん、福士さんのすぐれたお仕事をきちんと引き継ぐことにより、人びとの「環」をより強いものとし、江戸絵画、日本画の魅力を、県民の方々、そして一般の方々にお伝えする役割を、少しでも果たすことができればと思います。



5月上旬に当館所蔵の狩野派作品が出品されていた展覧会をアメリカに観に行った折、METにて撮影しました

利用案内

開館時間：10:00～17:30(展示室への入室は17:00まで)
休館日：毎週月曜日(月曜祝日の場合は開館、翌火曜日休館)

アクセス

- ◎JR「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分
- ◎静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分またはバスで約3分
- ◎東名高速道路 静岡I.C.、清水I.C.から約25分
- ◎新東名高速道路 新静岡I.C.から約25分

テレフォン・サービス：054-262-3737
ウェブサイト：<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

無料託児サービス
毎週日曜日および祝日10:30～15:30
対象 6ヶ月～小学校就学前

※イベント等は都合により変更になる場合があります。
※詳細は美術館学芸課までお問い合わせください。
(Tel: 054-263-5857)

風景とロダンの
静岡県立美術館

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
総務課/Tel 054-263-5755 Fax 054-263-5767
学芸課/Tel 054-263-5857 Fax 054-263-5742

ムセイオン静岡 連続講座「静岡×徳川時代」のご案内

【予定】

第3回 7月11日

「能と静岡～徳川家と能楽 観世家～」 講師：山階彌右衛門(観世流能楽師)

第4回 9月5日

「富士山と白隠」 講師：芳澤勝弘(花園大学国際禅学研究所元教授)

第5回 10月24日

「静岡と山田長政がつなぐ書物」 講師：鈴木大治(あべの古書店店主)

第6回 11月14日

「グランシップ寄席」
出演：宝井琴星(講談師)、柳亭市馬(落語家)、松山うめ吉(俗曲)

第7回 12月19日

「旅の人 十返舎一九」 講師：松井今朝子(直木賞作家)

第8回 1月16日

「徳川日本の美術と博物趣味」 講師：芳賀徹(静岡県立美術館館長)

【参加費】

第3～5、7～8回

一般1000円 学生300円 高校生以下無料

第6回

全席指定一般3500円 こども・学生1000円(未就学児入場不可)

【申し込み】

グランシップチケットセンター
TEL: 054-289-9000 FAX: 054-203-5716
E-mail: info@granship.or.jp
(件名に〇/〇「静岡×徳川時代連続講座参加希望」と明記してください。
参加希望の方は、住所、氏名、電話番号、参加人数を明記の上、上記までお申し込みください。

友の会のご案内 入会は常時受け付けています。会員特典など詳細は、友の会事務局(Tel.054-264-0897)にお問い合わせください。